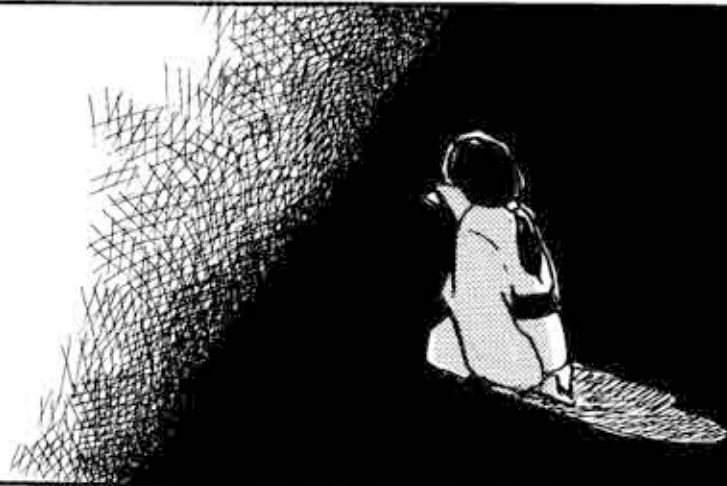


今でこそ
きかれなくなった
「天然痘」

江戸時代にも
しばしば流行し
死亡率の高い
伝染病として
恐れられて
いました



命が助かったとしても
痘痕(あばた)が残り
殊に若い女性は
悲嘆のあまり
自害する者さえ
いたほどです

この「天然痘」は

一度かかると

二度はかからない病気

より安全な

予防接種の方法(種痘)を

確立するため

多くの医師たちが

力を注ぎました

一七九六年

英国人エドワード・ジェンナーが

発明した「牛痘法」は

人には軽い症状しか起こさない牛痘を

人工的に感染させ

天然痘を予防するという

画期的な方法でした(死亡率0)



エドワード・ジェンナー

名君といわれた

佐賀藩主・鍋島直正は
なべしまなおまさ

幼少のころ

天然痘にかかったことがあり

「牛痘法」の普及に
積極的でした

殿
残念ながら
今わが国には
種になる痘苗が
ございませんぬ

その役割を

任されたのが

長崎詰の医師

ならばやしそうけん
榎林宗建でございます



宗建は

牛痘法の取り寄せを

出島のオランダ商館長に依頼

嘉永元年（一八四八年）

新しく赴任した商館医の

モーニツケが牛痘の

漿（うみ）を持ってきますが

長い航海の間に

菌（ウイルス）が弱っていて

植え継ぎは失敗に終わりました



オットー・モーニツケ

なぜ

うまく

いかないのでしょうか？



いっそ

「人痘法」の

やり方では

だめだろうか

榎林宗建





「人痘法」!!

榎林殿
しかし
それは
あまりに
危険なのは



「人痘法」とは
先に日本に伝わっていた
やり方で
天然痘患者の
かさぶたの粉末を使う方法です
ただ実際に天然痘にかかり
命を落とす者もいて
危険を伴いました



いえいえ
人の痘苗を使おうと
いうのではないのですよ
「人痘法」のように
種を乾燥させるやり方は
どうかと

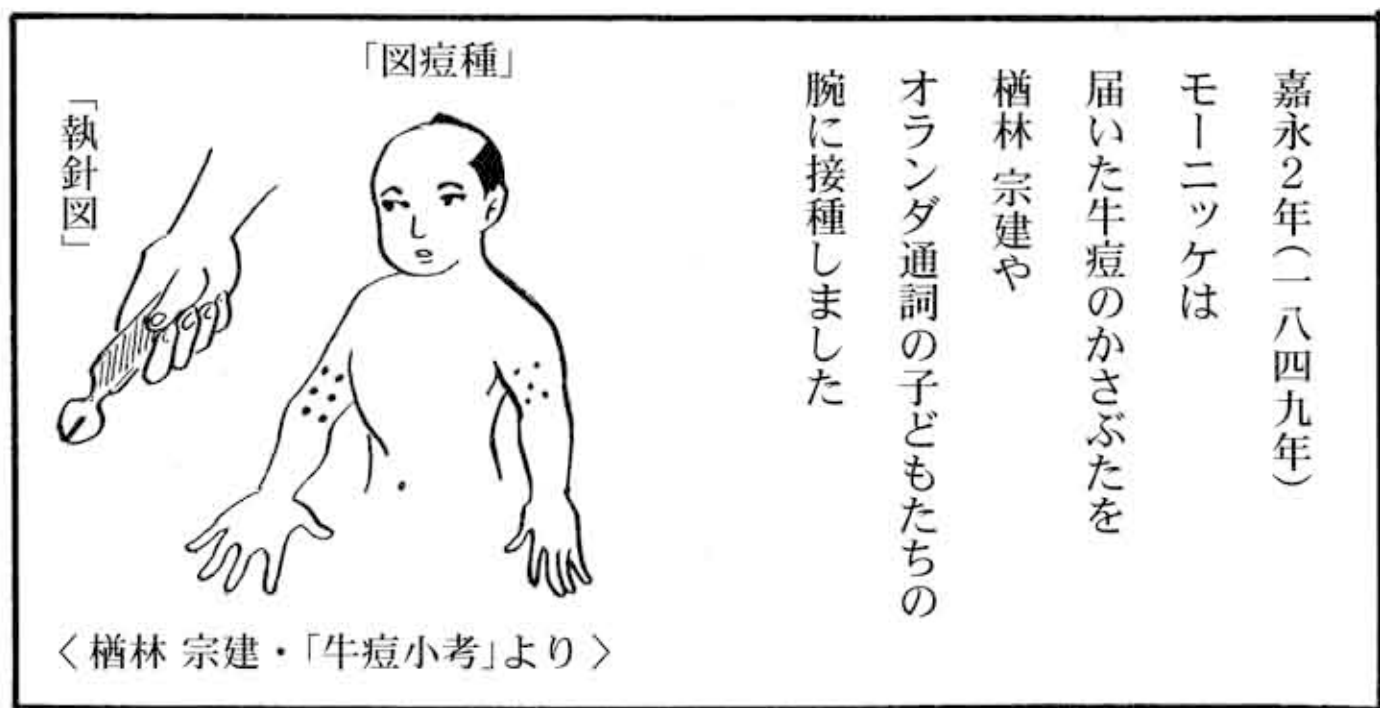
漿(うみ)ではなく
かさぶたで運べば
もっと長く保存がきく



なるほど
 ※ バタビアから
 乾燥した
 かさぶたを
 送らせましょう

モーニツケ殿
 ありがたい

※インドネシアのジャカルタ



嘉永2年(一八四九年)
 モーニツケは
 届いた牛痘のかさぶたを
 榎林宗建や
 オランダ通詞の子どもたちの
 腕に接種しました

「凶痘種」

「執針図」

〈榎林宗建・「牛痘小考」より〉

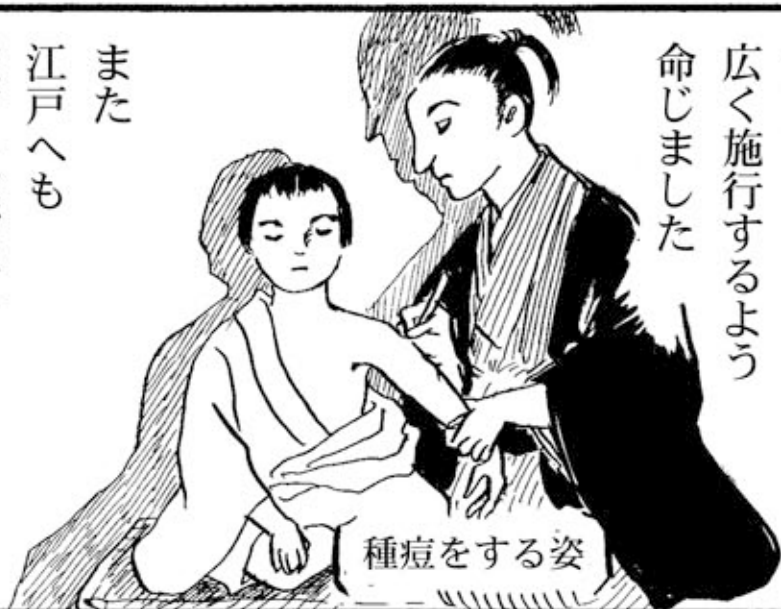


はれて
 赤くなっておる
 建三郎
 でかしたぞ

三日後
 榎林宗建の三男
 建三郎の右腕にのみ
 反応がでました

建三郎
 ただちに
 佐賀に
 むかうぞ

鍋島直正は
たいそう喜んで
息子の淳一郎に
種痘を受けさせ
領内にも
広く施行するよう
命じました



また
江戸へも
痘苗を運ばせて
娘の貢姫にも
接種させました

「顔や声が

牛のようになるぞ」

「牛の角が生えるぞ」などの

いわれなき噂も流れましたが

わずかな間に

子ども腕から腕へと

牛痘苗は植え継がれ

全国に広まっていったのです



伊東 玄朴

種痘の普及には

吉雄 圭斎・長与 俊達

楢林 榮建・伊東 玄朴

笠原 良策・日野 鼎哉

緒方 洪庵などなど

多くの医師たちが

貢献しました



緒方 洪庵

その後

明治8年（一八七五年）に

初代衛生局長に就任した

※
長与専齋が

牛痘種継所を設立



長与 専齋

※(大村藩医・長与俊達の子)

国内における

牛痘ワクチンの量産によって

度重なる天然痘の流行にも

対応できるようになりました

そして

昭和55年（一九八〇年）

WHO（世界保健機関）は

天然痘の根絶宣言を

おこないました

長い間

世界中で多くの医師たちが

天然痘撲滅のために

力を尽くしました

長崎という場所も

長崎ゆかりの人々も

大きな役割を果たしたのです